

Seasarファウンデーション 理事会アジェンダ・資料

2008年2月18日

理事会活動報告の報告内容

Seasar Conference 2009 White

Seasar Foundation とは何か？

SEASAR FOUNDATION

» Seasarファウンデーションとは

国内オープンソースソフトウェア開発コミュニティの運営支援と、支援コミュニティの開発成果物に付随する知的財産権管理を通じて、広く社会貢献を行っていくことを目的とした特定非営利活動法人です。



日本で最大級の開発者を擁する Seasarプロジェクトを母体としている

国内では、オープンソースソフトウェアの開発・発信が少なく、こういったコミュニティは数多くない

将来の「ロールモデル」となりうる人材が集まる状況にある

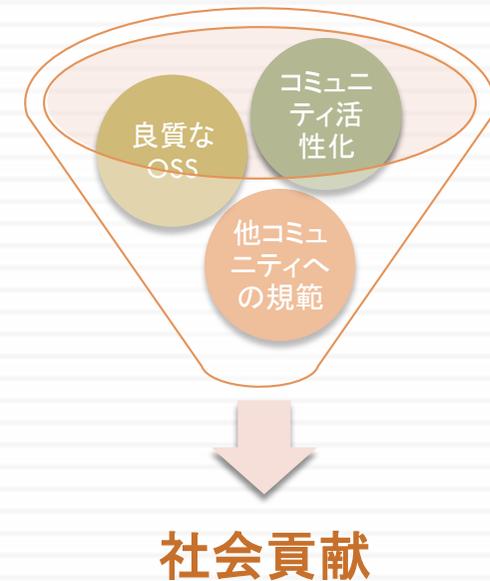
開発・教育・保守といった新しいマーケットを創造した

WEBニュースなどマスコミにもすでに注目されている

Seasar Foundation が目指すもの

- 良質なオープンソースソフトウェアを開発するコミュニティへの支援活動を通じ、IT技術ならびにIT産業の振興を計り、高度情報化社会の実現および、国際協力に貢献します。
 - オープンソースソフトウェア開発者の連携感を醸成し、勇気づけ、コミュニティを活性化させます。
 - 開発されたオープンソースソフトウェアの知的財産権を継続的かつ、透明性高く運用管理し、世界中に影響力を発揮します。
- 活動の成果を他コミュニティへも伝播させ、日本のIT業界全体の底上げの実現を目指します。

Seasar ファウンデーション



特定非営利活動法人(NPO)

活動の公共性

- NPOは年次で更新される個人を中心とした多数のNPO会員にて権利留保します。また、その会員は支払った会費口数に関わらず、自然人、法人を問わず人格毎に1個の議決権を有します。
- さらにはNPO法に定められたとおり、入会希望者について区別を行ってはならず誰もが容易にNPO会員になることを認めています。
- 理論的に特定の法人もしくは個人による権利寡占や排他行動を不可能とする形態となっています。
- ここに、NPOこそがオープンソースソフトウェアの知的財産権を所有する最適な方法であるという考えに至り、Seasarファウンデーションの公共性を示す根拠のひとつとしています。

OSS開発と配布を活動内容としてきた任意組織「Seasarプロジェクト」が特定非営利活動促進法に基づいた法人(以下、「NPO」)設立を、内閣総理大臣へ2005年8月に申請し、2005年12月に認証されました。申請に先立って、NPO設立を企図した2004年11月より現在名称の Seasarファウンデーションに変更しています。

現在の役員構成

代表理事：栗原 傑享

・ 株式会社グルージェント/サイオステクノロジー株式会社

理事：渥美 俊英

・ 株式会社電通国際情報サービス

理事：喜多 伸夫

・ サイオステクノロジー株式会社

理事：千葉 滋

・ 東京工業大学 教授

理事：中山 義人

・ 株式会社NTTデータ イントラマート

理事：橋本 正徳

・ 株式会社ヌーラボ

理事：丸山 不二夫

・ 早稲田大学 客員教授

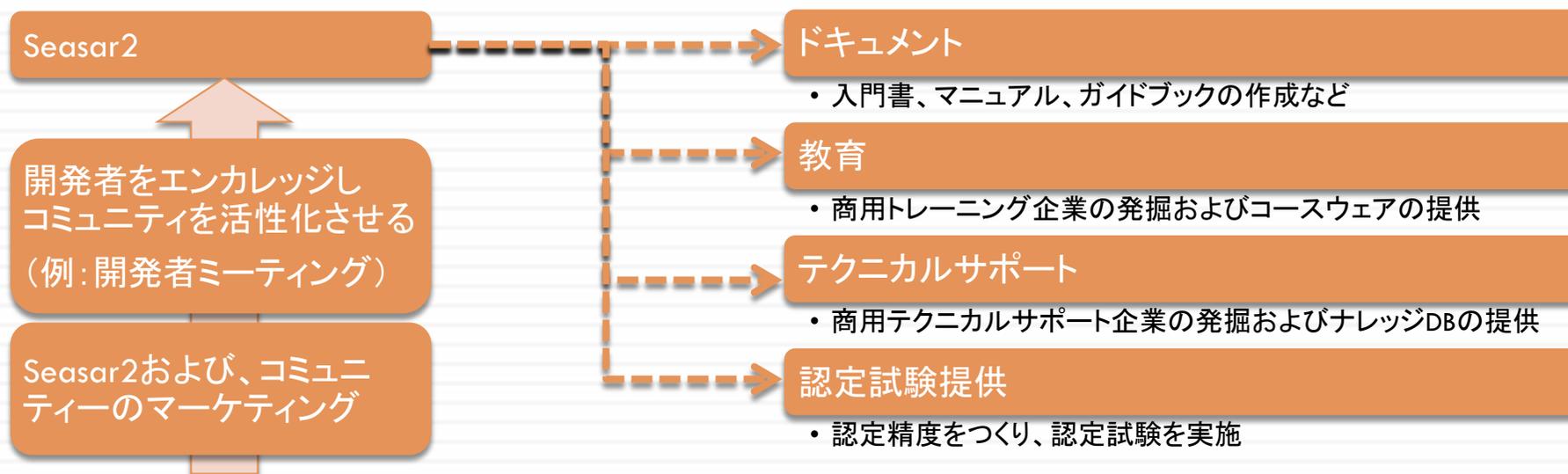
監事：宮原 徹

・ 株式会社びぎねっと

Seasar基金にて最初に着手する施策

Seasar2をメンテナンス・サポートしていく

- Seasar2は開発から4年が経ち、現在、一般的に使われようとしている
- 利用者視点では、Seasar2がメンテナンス・サポートされ続けるということは重要性が高い
- スポンサー視点でも、Seasar2のメンテナンス・サポートに資金を出すことは理解しやすい



- 当初はSeasar製品そのものをビジネスにしているところ
- Seasar基金が拡大していけば、OSSそのものの発展等に興味があるところへ

Funder (出資者)

事例や導入向けのプロパガンダを関連組織がやりやすいようなインフラ等の提供をファウンデーションにて行う。実際に市場へ向けて宣伝して、ビジネスを行うのは、ITベンダや教育関係会社

市場

- ・組織的なサポート体制確立による安心感の向上
- ・認定技術者からのテクニカルサービスによる安心感の向上
- ・自らの知識の確認が客観的にできる (ユーザレベル認定) ことによる客観性の向上

資金提供

出資者への転換

ビジネスの拡大

Seasar 特定非営利活動法人Seasarファウンデーション

Seasar基金

- Seasarコア製品認定、版管理
- ドキュメント等整備方針策定
- 認定制度運営、認定書販売
- 教育体系策定、修了書販売

機会提供

経験、知見、ノウハウ、認定、ビジネス提供

ITベンダ

- コア製品版管理
- Doc整備
- テクニカルサービス提供

労働力提供
認定証購入

教育体系提供

教育関係会社

- 教育サービス提供
- 認定テスト等実施

修了書購入
認定証

成果物

- Seasarコア製品
- OSS新製品
- 関連ドキュメント
- 認定制度
- 教育体系
- ナレッジDB

ドキュメント整備、コア製品維持等への参画により、ユーザ⇒コミッター層の拡大を推進していく

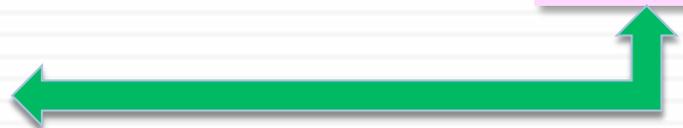
コミッター

ノウハウ アイデア提供
OSS新製品

地方のNPOやコミュニティとも積極的に連携していき、開発会社や開発者の発掘していく。人材育成、啓蒙は匿名性が高いと効果が低いため、地方のNPO等と分担しらせていく想定

地域

地方NPO、コミュニティ (AIP等)



- 当初はSeasar製品そのものをビジネスにしているところ
- Seasar基金が拡大していけば、OSSそのものの発展等に興味があるところへ

Funder (出資者)

事例や導入向けのプロパガンダを関連組織がやりやすいようなインフラ等の提供をファウンデーションにて行う。実際に市場へ向けて宣伝して、ビジネスを行うのは、ITベンダや教育関係会社

市場

- ・組織的なサポート体制確立による安心感の向上
- ・認定技術者からのテクニカルサービスによる安心感の向上
- ・自らの知識の確認が客観的にできる (ユーザーレベル認定) ことによる客観性の向上

Seasar 特定非営利活動法人Seasarファウンデーション

- Seasarコア製品認定、版管理
- ドキュメント等整備方針策定
- 認定制度運営、認定書販売
- 教育体系策定、修了書販売

機会提供

Seasar基金

ITベンダ

- コア製品版管理
- Doc整備
- テクニカルサービス提供

教育関係会社

- 教育サービス提供
- 認定テスト等実施

資金提供

出資者への転換

ビジネスの拡大

経験、知見、ノウハウ、認定、ビジネス提供

労働力提供
認定証購入

教育体系提供

修了書購入

生み出したい良循環①

Seasarの版管理等を組織的に行うことで、エンタープライズな要望に応える。

関連ビジネスが創出・拡大

新たなFunderの獲得

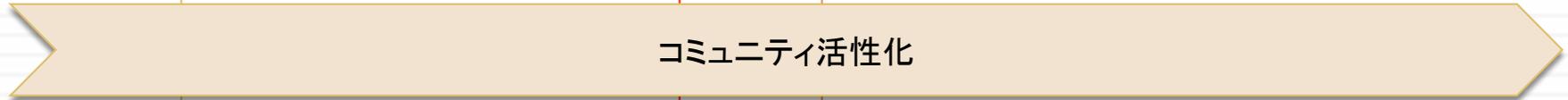
Seasarの安定化、ビジネス拡大、OSS開発サポートへの転嫁

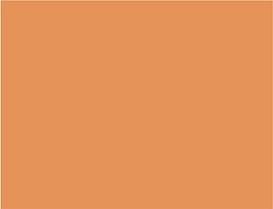
地域
地方NPO、コミュニティ (AIP等)



今後のアクションプラン

月次定例の理事会





Seasar Conference 2009 White 報告

Conference 報告サマリ

| | |
|---------|------------------------|
| 総セッション数 | 26(ライトニングトークス、理事会報告含む) |
| 総動員数 | 600名(おおよそ) |
| 会員申込者数 | |
| 総費用 | 550,900円(おおよそ) |

Seasar2関連の基礎的なセッションの量を増やした

- ・ DIことはじめ
- ・ 最新のDI&AOP
- ・ Seasar2の今と未来
- ・ テスト駆動開発のころ(S2Unit)

その他プロダクトも同様に基礎的なセッションを準備

- ・ JSFからのTeeda
- ・ 45分で分かるBuri
- ・ S2DaoもN:Nできます

プレゼントもやった

- ・ ソフトバンククリエイティブさまより、書籍14冊を頂き、じゃんけん大会を行う
- ・ また、お願いしたいとのこと

開発者はもとより、ビジネスユースの方の参加が以前から多くみられるようになってきた。また、今回は、メディアの取材等が増えた感触がある。

教えてください！

来場者アンケートより

- ここは、後ほど埋めます

メディア掲載記事

- [Seasar Conference] 認定試験やオープンソースウェア構想を発表「商用サポート提供企業を発掘」
 - <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20090315/326596/>
- [Seasar Conference]「Slim3, まもなく公開」---ひがやすを氏が新フレームワークをデモ
 - <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/NEWS/20090315/326615/>
- その他
 - ITメディアさまが4月のJava特集の中で取り上げる予定
 - 技術評論社さまが何かやっていたので、どこかで取り扱われる予定



Seasar Conference 2009 Spring

次回のConferenceについて

Seasar Conference 2009 Spring

- アジェンダ(案)
 - ファウンデーション活動報告(社員総会)
 - 認定試験制度の発表
 - 教育事業についての発表
 - 理事改選(選挙)
 - セッション
 - Seasar2の開発について
 - ひがやすをさん
 - 歴史を振り返る感じで
 - 偉業を成し遂げた人として
 - コミュニティでの交わりで生まれた「発見・発明」の話などあればなお良い
 - Seasar2事例発表
 - iSID
 - グルージェント
 - ヌーラボ
 - その他、事例のある企業
 - Seasarプロジェクトを支えるインフラについて
 - 二川さん
 - OSSの今後
 - 栗原さん
 - Seasar Conference 2009 White の内容
 - パネルディスカッション
 - 他コミュニティを交えて、「コミュニティについて」などどうだろうか？
 - OBCI(ビジネス)などの路線？
 - Shibuya.pm(ギーク)などの路線？
- コンセプト
 - OSS開発コミュニティの今と、Seasar2のこれからを感じるカンファレンス(仮)
- イベントを行ったあとのイメージ
 - エンタープライズな雰囲気が増えた感じになる
 - 大中企業ユーザへのアプローチができる
 - 協賛して貰いやすい感じになる
 - Seasar2が新たなステージにあがったような感じになる
 - 一回絞め作業、後の展開に繋げていく
 - 「Whiteって、そういうことだったのか！」なんて言ってもらえる
- 会場は800人の部屋を準備中
 - 日程はまだ未決定
 - 法政大学
- 資金調達
 - 今年度は、積極的に協賛等を求めていない為、現在、イベントを行う費用が捻出できない

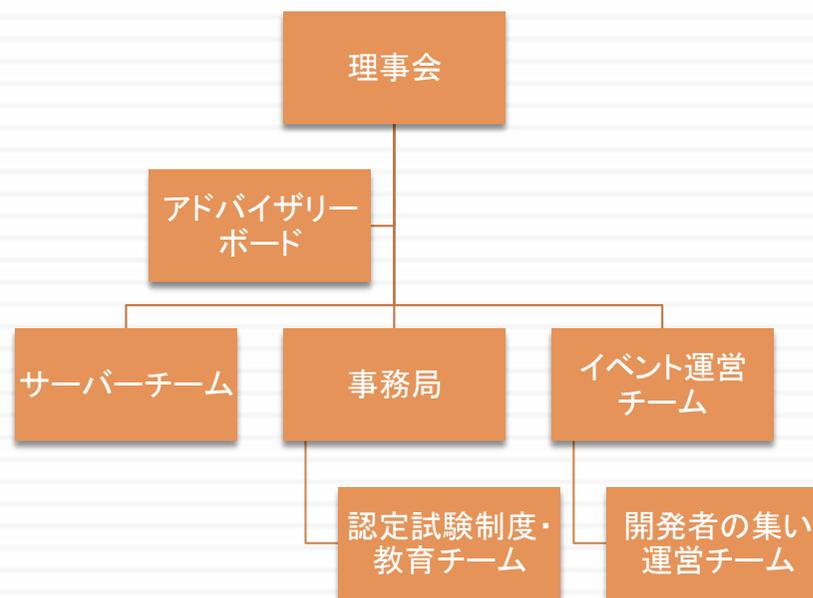
資金残高

- くりはらさん宜しくお願いいたします。

新体制について

NPO運営チーム

- 理事会
 - 特定非営利活動法人Seasarファウンデーションの役員です。
- アドバイザリーボード
 - 理事会の活動に関与し、意見を述べます。
- 事務局
 - 事業目的を遂行するために、ビジネス情報の創造・加工・伝達・蓄積・処理をします。
 - 認定試験制度・教育などを設計、推進します。
- サーバーチーム
 - Seasarファウンデーションの配下にあるOSS開発コミュニティのサーバーの運用、管理をします。
- イベント運営チーム
 - 主に「Seasar Conference」のイベント運営をします。
 - 開発者の集い(dev-meeting)運営
 - Seasarファウンデーション内外にあるOSSコミュニティの開発者の交流を行います



くりはらチェックをお願いします

新体制について(理事改選について)

理事会

- 千葉さん
- 丸山さん
- 渥美さん
- 宮原さん
- 栗原さん
- 古川さん(候補)
- 米林さん(候補)
- 橋本

アドバイザリボード

- 喜多さん(宜しくお願いいたします)
- 中山さん(宜しくお願いいたします)

事務局

- 杉山さん
- 加藤さん
- これに加え、栗原さん、古川さん、米林さん、橋本

イベント運営チーム(開発者の集い含む)

- 二川さん
- 米林さん(未承諾)
- 武田さん(未承諾)
- 栗原さん(未承諾)
- 橋本
- および「開発者の集い」参加者

サーバーチーム

- 二川さん(Seasar関連全般)
- 染田さん(escafe.org)

認定試験制度・教育チーム

- 古川さん(未承諾)
- 栗原さん(未承諾)
- 杉山さん(未承諾)
- 橋本

くりはらチェックお願いします

試験認定制度について

目的

- ユーザーがSeasar2を選択する機会を増やす
- デベロッパの技術水準を明確化することで、ビジネスチャンスにつなげ易くする

認知度アップ

利用者(ユーザー、デベロッパ)を増やす

ビジネスシステムでの利用促進

- 考慮
 - UMLやXML認定試験のように、形骸化した制度にしない
 - ビジネスにつながり難い

試験科目と概要

□ プログラマー

- Seasar2及び関連技術を使って適切なプログラミングができる技術及び知識を有しているか
- より、実務的な知識を問うため、以下の項目を網羅する
 - Seasar2、S2Dao、Struts、Java EEなど
- 試験方法
 - 筆記及び選択形式

□ アーキテクト

- システム要件に応じて、Seasar2及び関連プロダクトを適切に選択できる
- 適切なアーキテクチャ及びデザインパターンを提示できる
- 試験方法
 - 筆記及び選択形式
 - 要件書から設計実装した結果レポート提出

試験科目と概要

- オプション(中期的計画)
 - SAStruts、Teedaなど個別プロダクト

特典

- 合格者のHP掲載
- Webや雑誌等の執筆機会の提供(アーキテクト)
- Seasarカンファレンスでのセッションスピーカー(アーキテクト)
- ユーザー/デベロッパ企業への通知
 - 会社/氏名
 - 関係企業には、なるべく認定試験合格者をプロジェクトに参加させるように呼びかける

実施環境

- ちょいスタディー
 - 選択問題
 - 結果の集計レポート
- Irenka
 - ソースコード、設定ファイルの記述など、直接入力問題の評価

実施方法(手順)

- 受験料
 - プログラマ \5,000
 - アーキテクト \10,000
- 手順
 - Webからの申し込み
 - 振込み確認
 - アカウント/パスワード発行
 - 試験実施
 - 結果の通知

今後の課題

- Seasa2の標準バージョンを定める
 - Ver2.3と2.4では、大きく機能が異なるため標準的な安定度と機能を備えたVerが必要